

2009 3700/A

2009 3700/B

厚生労働科学研究費補助金

医療安全・医療技術評価総合研究事業

医療安全に係るコミュニケーションスキルに関する研究
～患者ハラスメントに焦点をあてて～

平成 19～21 年度 総合研究報告書

平成 21 年度 総括・分担研究報告書

主任研究者 兼兒敏浩

平成 22 (2010) 年 3 月

厚生労働科学研究費補助金

医療安全・医療技術評価総合研究事業

医療安全に係るコミュニケーションスキルに関する研究
～患者ハラスメントに焦点をあてて～

平成 19～21 年度 総合研究報告書

平成 21 年度 総括・分担研究報告書

主任研究者 兼児敏浩

平成 22 (2010) 年 3 月

目次

I	平成19～21年度 総合研究報告書	1
	医療安全に係るコミュニケーションスキルに関する研究 ～患者ハラスメントに焦点をあてて～ 兼児敏浩 廣瀬昌博 長谷川友紀 江村正	
II	平成21年度 総括・分担研究報告書	5
	1. 平成21年度 総括研究報告	7
	医療安全に係るコミュニケーションスキルに関する研究 ～患者ハラスメントに焦点をあてて～ わが国における病院内での患者による医療提供者に対する ハラスメントの実態 兼児敏浩	
	2. 平成21年度 分担研究報告①	
	教育病院の看護師が受ける院内の実態について 長谷川友紀	35
	3. 平成21年度 分担研究報告②	45
	医療安全に係るコミュニケーションスキルに関する研究 ～患者ハラスメントに焦点をあてて～(初期研修医を対象として) 江村 正	
	4. 平成21年度 分担研究報告③	51
	医療安全に係るコミュニケーションスキルに関する研究 ～患者ハラスメントに焦点をあてて～(機能の異なる2病院を対象として) 廣瀬昌博	

I 平成 19－21 年度 総合研究報告

医療安全に係るコミュニケーションスキルに関する研究

～患者ハラスメントに焦点をあてて～

主任研究者	兼児 敏浩
分担研究者	廣瀬 昌博
分担研究者	長谷川 友紀
分担研究者	江村 正

平成 19—21 年度 厚生労働科学研究費補助金
(医療安全・医療技術評価総合研究事業)
総合研究報告書

医療安全に係るコミュニケーションスキルに関する研究
～患者ハラスメントに焦点をあてて～

三重大学医学部附属病院	主任研究者	兼児 敏浩
島根大学医学部附属病院	分担研究者	廣瀬 昌博
東邦大学医学部	分担研究者	長谷川 友紀
佐賀大学医学部附属病院	分担研究者	江村 正

A. 研究目的

患者ハラスメントの実態を把握し、効果的な発生防止対策と発生時の対処方法を提言することを目的とする。患者ハラスメントの実態や対処方法についての定期的な発信は、患者と医療者の良好な関係構築に寄与し、医療現場における労働環境の改善つながりことから、医療安全の推進とともに医療提供者の離職防止、医療現場の崩壊に歯止めをかけることも目的とする。

B. 研究方法

患者ハラスメントを「医療提供者に対する患者や患者家族による不当な要求や暴言、暴力（セクシャルハラスメントも含む）」と定義し、主任研究者の兼児は平成 19 年度から 21 年度までの 3 年間で、全国の 29 施設の病院から、主として当該施設の安全管理者を通じて、患者ハラスメント事例を収集し解析した。20 年度からの分担研究者である廣瀬は、20 年度は大学病院と大規模病院、21 年度は救急・一般病床中心の中小規模病院、および、療養・介護中心の中小規模病院の職員に対して患者ハラスメントに対するアンケート調査を実施、解析した。21 年度からの分担研究者である長谷川と江村はそれぞれ大学病院において、看護師、研修医を対象とした患者ハラスメント被害に関する調査・解析を行った。

C. 研究結果

研究結果については本書の総括・分担研究報告書を参照されたい。

D. 考察

考察については本書の総括・分担研究報告書を参照されたい。

E. 結論

患者ハラスメントは医療施設の性格や職種を問わず、全ての医療提供者が被害者となりうる事が明らかになった。患者ハラスメント対策にまず必要なことは、ハラスメント事例を組織全体で把握・共有していく体制の構築である。実務的にはハラスメントを暴力、セクシャルハラスメント、暴言・不当な要求と分類し対策を講じることが効果的であると考えられるが、暴言・不当な要求によるハラスメント対策は今後の検討課題である。

F. 健康危険情報

なし。

G. 研究発表

学会発表 2010年6月 第12回日本医療マネジメント学会で口演発表

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし。

